

農薬あれこれ



有機リン系農薬

家庭用の農薬として多く使われている。安価で効き目が強い。最近では慢性毒性(神経・精神障害)の問題が指摘され、海外では使用が禁止されている国も多い。農業用以外にも多用されている。有機リン系農薬は、地下鉄サリン事件で問題となったサリンやソマン、VX ガスと同じ仲間。中国製冷凍ギョーザの中毒事件で有名になった「メタミドホス」も有機リン系農薬。

【用途】農業用、家庭園芸用、殺虫剤、木材防腐剤、稲わらを使用した畳、電車、バス、タクシー、航空機などの機内消毒、ワックスの可塑剤など。

【こんな名前が店頭に！】ダニ・ゴキブリジェット、バルサン、バポナ殺虫プレート、スミチオン、マラソン、クロルピリホス、オルトラン、トリクロルホン、ジクロルボス(DDVP)、ダイアジノンなど。

【症状】激しいよだれ、脱力感、目のかすみ、吐き気、嘔吐、頭痛、腹痛、めまい、発汗、下痢、食欲不振、痙攣、重症になると意識混濁、呼吸困難、徐々に神経症状が現れる。狭心症や心筋梗塞の原因、記憶障害や子どもの多動障害、免疫力の低下、化学物質過敏症、うつ、睡眠障害など。



ネオニコチノイド系農薬

ミツバチ減少の原因と疑われている比較的新しい(登録後15年経過)タイプの農薬。主流であった有機リン系の代替として日本曹達が開発。安全な農薬として近年多量に販売・使用されているが、影響はミツバチだけでなく、人に対しても深刻な被害がでている。ネオニコチノイド系のアセタミプリドはタバコに含まれるニコチン類似物質の殺虫剤で、植物への浸透性が高く、分解しにくく、残留性が高いので使用回数が減らせるため『減農薬栽培』として使われている。しかし、水溶性なので作物に吸収され、洗っても皮をむいても農薬成分が落ちないので要注意。無味無臭で最大半径4キロに拡散。低用量であっても自律神経、中枢神経、免疫系に影響を与える。特に、胎児や発達途上の子どもの脳への影響が懸念されている。フランス、ドイツ、オランダなどヨーロッパの国々では『予防原則』の適用によりこの農薬の使用を禁止し始めているが、米国や英国など規制の遅れている国は、市民団体や生協などが問題に取り組んでいる。(詳しくは会報53, 54, 63, 64, 69参照ください)

【用途】農業用として減農薬栽培、米野菜からお茶、果物まで(お茶と果実は特に基準がゆるい)、樹木消毒、住宅の床下消毒、家庭園芸用(バストガード、アースガーデンなど)、ペットの蚤とり剤など。

【こんな名前が店頭に！】アセタミプリド(モスピラン)、クロチアニジン(ダントツなど)、イミダクプリド、フィプロニルなど。

【症状】頭痛、動悸、胸痛、不整脈、短期記憶障害、瞳孔機能障害、手の震え、異常な興奮、暴力的、吐き気、おう吐、低体温、疲労、ひきつけ、痙攣、うつ、引きこもり、運動失調、皮膚疾患、免疫系の異常など。



ピレスロイド系農薬

除虫菊に含まれている殺虫成分ピレトリンをまねて化学合成したもので、家庭用殺虫剤に多い。除虫菊は、昔から蚊取り線香や農業用殺虫剤などに広く使われてきたが、合成ピレスロイドが開発されたことにより、使用量は減少する傾向にある。合成ピレスロイドの種類は1000種以上あると言われている。神経系に作用し、常に興奮状態が続く。毒性は、局所的影響、特に感覚異常が見られる。ピレスロイドによる神経系の害は、DDTによる害に匹敵するといわれている。家庭内ではスプレー缶などの使用により、呼吸を通じて体内に取り込まれると共に、食器、食品への付着によって経口的に、畳や紙、木部への付着によって経皮的にも人体を汚染する。ペルメトリンは、動物実験でも発がん性がある。すべてのピレスロイドはミツバチを含む益虫に極端に神経毒として作用し、有毒である。魚類をはじめとする水生生物に対しても極度に有毒であるが、マガモのような鳥類に対してはわずかに有毒である。

【用途】農業用、家庭園芸用、殺虫剤、防虫剤、蚊帳、蚊取り線香、ペット用シャンプー、蚤とり剤、防蟻剤

【こんな名前が店頭に！】成分名の最後が「～スリン」、「～トリン」などは大抵ピレスロイド系。ムシューダ、ゴン、ミセスロイド、アース防虫シート、フマキラー、キンチョール、アース網戸に虫こない、ノミ取り首輪、アースレッド、バルサン、アースノーマット、蚊とり線香本練り、金鳳香、動物用金鳥の渦巻きなど殆どの殺虫剤に使用されている。

【症状】吐き気、嘔吐、下痢、頭痛、耳鳴り、傾眠、皮膚過敏症、結膜炎喘息様呼吸症状及びくしゃみ・鼻づまり・よだれ、過剰興奮 重症になると呼吸障害、ふるえを起こす。

発達中の神経系(胚と胎児・幼児)が、ピレスロイドに被ばくすると、成熟した後にも構造や機能に悪影響が残る。スウェーデンの研究は、「少量の神経毒物に赤ん坊が被ばくすると、同じような神経毒作用を持つ物質に対し、大人になってから感受性を高めることがあり、それ以外にも行動かく乱と学習障害をもたらす」ことを発見。

【内分泌系かく乱】ピレスロイドは内分泌系をかく乱し、女性で乳ガンを発生、男性で精子数を減少させる。生殖機能不全及び発達障害の一因となる。男性の女性化乳房現象を引き起こす。

【小児脳腫瘍】農薬と小児脳腫瘍に関する報告は、ピレスロイドとの強い関係を明らかにしている。環境保健展望に発表された農薬と小児脳腫瘍に関する報告は「子どもの脳腫瘍と関連する明確な化学物質はピレトリンとピレスロイド(ペルメトリン及びテトラメトリン・アレスリン・レスメトリン・フェンバレート)及びクロルピリホス(商品名:ダズバン)である」としている。

まとめ

農薬の健康被害は、農薬を職業的に扱う人はもちろん、農薬工場の周辺や農薬散布地域に住む人々は、常に農薬を取り込んでいる可能性があります。住宅街に住んでいても、安心できません。

公園や街路樹、山林に散布される除草剤や殺虫剤、飲食物の残留農薬、家では掃除機のゴミパック、蚊取り線香や殺虫剤、ペットのノミとり剤、シロアリ防除剤、衣料用防虫剤などから農薬成分を取り込んでいるからです。一つ一つが微量であっても、毎日、複合されて人体に取り込まれ、アレルギーや化学物質過敏症などを引き起こしているのです。症状がでるかどうかは、許容量に個人差があるため、一概には言えませんが、化学物質化敏症の患者さんなどは、低濃度でも辛い症状に悩まされます。

どの農薬も、特に子どもの精神・神経機能に悪影響を及ぼすという研究結果がだされています。妊婦や子どものいる家庭での配慮は重要です。

家の中ではこれらの殺虫剤を使用しないとともに、農薬を使用する際には風向き、近隣の洗濯物の有無、窓は開いていないかなど確認し、一声かけることが大事です。



—日本の農薬使用量は、耕地面積あたり米国の7倍、スウェーデンの25倍—

※収穫前日まで使用可能な農薬……

環境ホルモンの疑いのあるペルメトリン14種、シペルメトリン13種、神経毒性のある有機リン剤 DDVP11種が農作物に使用可能となっている。(そのうち米、小麦、豆類は保管中も使用可能)

※農薬使用数の多い作物……

トップからキュウリ、ナス、トマト、イチゴ、メロン、ピーマン、スイカ、モモ、カボチャ、サヤエンドウ……など。厚生省がまとめた検疫所の検査報告では日本産も他国産も残留農薬の量では大差ないことが判明している。

※残留農薬の違反事例が多い農薬 ……

クロルピリホス、パラチオン、メチルパラチオン、ジクロルボス(DDVP)、シペルメトリンなど。



しっていますか？ シックスクール

子どもの環境を考える親の会
連絡先 0134(25)1182 or(27)5100
e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp
No.74 2010年5月
会報は皆さんの会費によって作られています。
郵便振替 02760-4-77134 1100円/年

あなたの庭は大丈夫？

“ウラン残土レンガ” が一般に出回っている？！

岡山県と鳥取県の県境に位置する人形峠では、50年ほど前にウランが採掘されていました。この採掘作業を10年間にわたって行ってきた現在の日本原子力研究開発機構は、「採掘は、量も品質も採算ベースに乗らない」という理由で、膨大な量のウラン残土を放置して撤収しました。

人形峠周辺の12地区のウラン鉱山跡地のうち、東郷町（現在は湯梨浜町）方面（かたも）地区の住民と自治会は、ウラン残土の撤去を要求して提訴しました。その結果、06年ついに裁判で「ウラン残土3000㎡の撤去命令」が確定。原子力機構は、3000㎡のうちウラン濃度の高い290㎡はアメリカ先住民の土地に輸出（公害輸出）し、残りの2710㎡のウラン残土をセメントで固化して100万個のレンガに加工、2011年までに県外に搬出すると約束したそうです。

09年12月、日本海新聞によると、このレンガの現在の加工数は約60万個。そのうち、約37万個は国内の原子力機構の関連施設に搬出されましたが、その搬出先は公表されていません。しかも、約15万個は34都道府県の一般に頒布。ウラン残土市民会議は、「ウラン残土レンガの搬出は原子力機構の関連施設にのみ限定されるべきで、一般への頒布は“核のゴミ”の“スソ切り”で、もつてのほか。しかも、搬出先の名前を公表しないのは情報公開の時代にとうてい容認できるものではない」としています。

京大原子炉実験所の小出裕章氏は「レンガに加工したからといってウランがなくなるわけではない。そのレンガからは、放射線が飛び出すし、ラドンが散逸してくる」といいます。現に、レンガ加工工場からは以前に計測されなかった濃度のラドンが空気中から検出されているそうです。

もしかしたら、私達の身近なお店に売っているレンガもウラン残土レンガかもしれません。レンガ造りの素敵な家も心配でね。子どもが遊ぶ砂場や公園の花壇などは大丈夫でしょうか。

ウラン残土の経過と問題点については『人形峠ウラン鉱害裁判』/小出裕章・土井淑平共著、ウラン残土市民会議 HP もあわせてご参照ください。※日本原子力研究開発機構は名称を度々変更していますので、わかりやすくするため現在の名称で統一して書きました。ご了承ください。

家の中も外も農薬に気をつけて ピレスロイド

そろそろ、庭や家の中の虫が気になり始める季節ですね。あなたの家には、ピレスロイド系の農薬（殺虫剤）はありませんか。ピレスロイド系の農薬は、家庭菜園用や殺虫スプレー、蚊取り線香、タンス用の防虫剤、ペットの蚤とり剤、シロアリ防除にも使われています。



ピレスロイドは、除虫菊の殺虫成分（ピレトリン）の性質・構造をまねて改造した農薬（殺虫剤）です。ピレトリンは、天然であるという理由で、ほとんど毒性試験がされていませんが、アレルギーは有名で、過敏反応による死亡事故も報告されているそうです。さて、ピレスロイド系農薬は安全であると思われがちですが、天然のピレトリンよりさらに有毒で、アメリカ化学アカデミーは、残効性が高いペルメトリンは、発ガン性の危険度が高い農薬としています。

過去には、山形市産の食用菊から基準を超えた6 1.ppm のピレスロイド系殺虫剤フェンバレーレートが検出されたこともあります。また、高知県の道の駅にある直売場で小松菜に使用禁止であるピレスロイド系殺虫剤エトフェンプロックスが使われていたことも。

無農薬で頑張っている農家の作物を選んで買うようにしましょう。減農薬はネオニコチノイド系農薬を使用していることが多いので要注意です。また、不必要な農薬入りの商品は購入しないこと。商品を購入する際には、成分表示を確認しましょう。



参考資料 ウラン残土市民会議 HP 鳥取県三朝町役場/編集・企画広報課 HP 市民ネット・岐阜の HP 産経ニュース HP 渡部和男氏Webサイト「環境汚染問題」 消費者レポート1457 ウィキペディア 週刊金曜日 ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議HP 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質管理センター ピコ通信 139 livedoor ニュース 回転寿司の真相 家庭用品の危険シリーズ19 買ってはいけない6 /金曜日 北海道新聞 朝日新聞

使うのをやめよう！ファブリーズ！

ファブリーズの、除菌成分は逆性せっけんです。ファブリーズの CM は『トモコロシ由来消臭成分配合』といって天然成分で安全そうな印象を与えていますが、化学物質です。このスプレーを使用して発疹、目への刺激、アレルギー性ぜんそくなどの症状がおきたという報告があります。これらのスプレーは、霧状の微粒子が、何時間も部屋に漂い、肺から吸収され体内に取り込まれるので、口から消化管に入るより「毒性」が強くなるといえます。2008年度の家庭用品等に係る健康被害病院モニター報告の吸入事故集計では、芳香・消臭・脱臭剤は種類別で4位でした。

英・ブリストル大学の実験では、『消臭スプレー』に含まれる化学物質が皮膚に浸透し、身体の抵抗力を弱める可能性があることが実証されています。さらに、『スプレー』をほぼ毎日使う女性は、週に1回未満の人に比べ、頭痛持ちの割合が25%、出産後のうつ病では19%も高いということです。

こんな話を聞きました。ある施設の職員が排泄の上手いかわない子どもの親に、「イスが臭ってハエが寄ってくるから消臭殺菌スプレーを持たせるように」と連絡帳に書いてきたそうです。

化学物質問題市民研究会が、10代向け新しいウェブサイト「ケミカルデイズ」を開設

十代の若い人を対象とした新しい化学物質情報サイト <http://www16.plala.or.jp/chemicaldays/index.html>
“ケミカルデイズ”とは、化学物質に取り囲まれている暮らしのことです。若い人たちに、化学物質のリスクに関する情報をわかりやすく伝えて、日常的に曝されている化学物質からのリスクを減らしていくことを目的としています。

野球観戦と乳がん検診がセット？

この計画をしたのは、ピンクリボンin SAPPORO 実行委員会。日本ハムの田中選手の呼びかけで北海道対がん協会と共催。内容は、マンモグラフィー検診と医師のカウンセリング後、当日の日ハム戦に招待されるというもの。なんと、女性が検診すると同伴者も招待されるらしい。『がんに関する普及啓発懇談会』が、「予防」のためと言って自治体にがん検診の個別勧奨を強く勧めていますが、「予防」とは、がんになる原因（環境や生活習慣など）を究明し改善することです。がんを多発させておいて、早期発見すれば良いというのは本末転倒です。誰のための検診でしょうか。疑いたくなります。

小樽市 麻疹・風疹ワクチン推進とフッ素調査

小樽保健所は、今年中1と高3になる子どもがいる全世帯に『予防接種のお知らせ』を配布しました。「この（無料）期間に是非予防接種を受けましょう」と書かれていて、予防接種予診表、保護者同意書、重要と書かれた説明書（麻疹に罹った人のうち 1000 人に一人程度の割合で死亡する」と丁寧に下線まで引かれていました）が同封。さらに、市内の幼稚園には「フッ素を利用しているか」という調査をしました。「無料」の言葉に惑わされず、保護者や先生は正しい情報を得て、行動しましょう。

札幌市 5つのあやまち

札幌市の児童会館の床工事で基準値の26倍のトルエンが検出されてから、相次いでずさんな工事の実態が明るみにでました。この問題は、行政の5つの重大な過ち（怠慢）によって発生しました。
①床にトルエン入りの接着剤を使用した②業者に使用する薬剤の成分を確認しなかった③工事終了後、空気検査をしなかった④異常値が報告された後も会館を閉鎖しなかった⑤検査結果の共有がなされていなかった—札幌市は、既に問題のあった児童会館30館と合わせ、今回新たな調査で、有害物質の濃度測定など安全確認をせず開放していた施設は全部で135館に上りました（約半数が幼稚園や小中高校）。14日の時点で体調不良を訴える児童らは111人に拡大。あまりにもずさんな業務態度に憤りを感じずにはいられません。もちろんプロである業者の責任も重大です！

【読者の声】

会報を読み、さっそく、子宮頸ガンのワクチンに関する記事を学級通信に載せさせてもらいました。前回の保護者会のおりは、ケイタイの電磁波の話をしたところ、大反響でした。事実を伝える大切さ、事実を知る大切さをしみじみ感じました。ちなみに、学級通信には、シックスクール子どもたちをとりまく環境を考えましよう～いま、できそうだなと思ったことからでいい、子どもたちの将来のために取り組めることを、まず私たち大人が実践していきますか～と呼びかけ資料を引用させてもらっています！小樽市 T.H